

地域の自活を支えるみちづくり



要防災対策箇所はどのくらい解消されているのか？

要防災対策箇所解消率

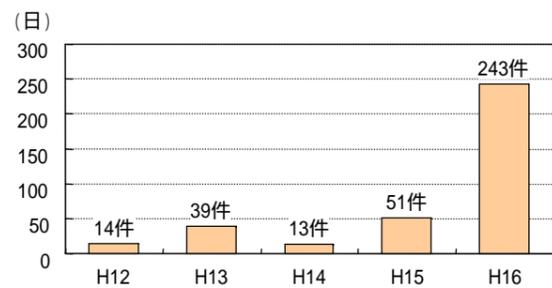
(要防災対策箇所解消率 = 平成8年指定箇所のうち解消済の箇所/全指定箇所)
平成8年の道路防災点検において、要防災対策箇所として指定を受けた箇所の解消割合。



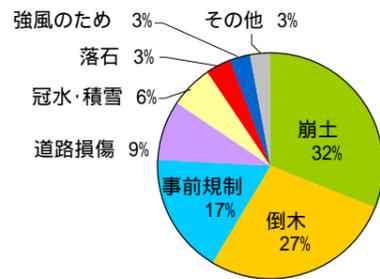
地域の現状と課題

道路災害の現状

平成16年度の年間の通行止め日数は過年度から大幅に増加し、特に、台風や大雨時の崩土や倒木等による被害が出ています。



災害による全面通行止め件数(平成12~16年度)



全面通行止めの要因の内訳(平成12~16年度)

被災状況「県道 粟野二見線(下関市豊北町粟野)」

平成16年9月の台風18号の風雨により木が倒れ、道路を遮断したため、1日間の全面通行止めを要しました。



被災状況「国道2号(岩国市保木)」

平成16年8月の台風16号通過時の増水により道路が崩落したため、3日間の全面通行止めを要しました。



出典:山口県及び国土交通省山口河川国道事務所資料

平成16年度の道路災害の発生状況

課題への対応

法面補強・道路改良等による要防災対策箇所の解消

山口県では、自然災害の危険性の高い箇所を「要防災対策箇所」として指定し、バイパス整備や法面補強工事等による要防災対策箇所の解消を順次行っています。

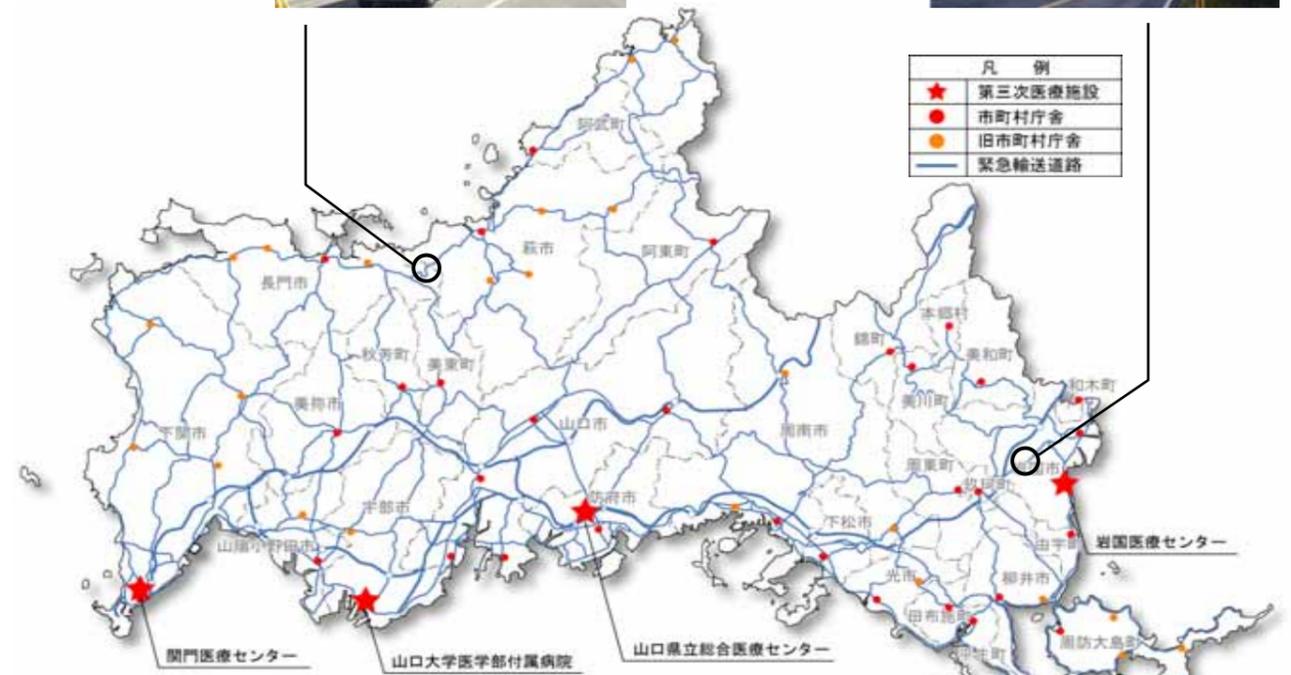
代表整備箇所「国道191号(萩市鎖峠)」

安定勾配で切土を行い、法面の滑り崩壊を抑止するために法枠とグラウンドアンカーによる対策を実施しています。



代表整備箇所「県道 岩国玖珂線(玖珂町欽明路)」

法面の崩壊、落石等を防止するため、吹付法枠工、擁壁及びストーンガード等による対策を実施しています。



出典:山口県及び国土交通省山口河川国道事務所資料

山口県内の緊急輸送道路と要防災対策箇所対策事例

道路災害に対するリダンダンシーを示す参考指標

萩~長門間の災害時の迂回路と所要時間 通常時32分 災害時52分

道路災害による通行止めは、ドライバーに大きな迂回を強いるだけでなく、救急活動や復旧支援の妨げとなり、地域を孤立化させます。

萩~長門間では、国道191号には並行する幹線道路がなく、大きな迂回を要するため、通行止めになった場合、所要時間は32分→52分が増加します。

要防災対策箇所の早期解消とともに、一般国道191号萩・三隅道路の整備を進めます。



災害時の迂回路と所要時間(萩~長門の例)